

○ 豪州フィードロット飼養頭数は87.3万頭・前四半期比9.3%増、07年水準に増加

豪州フィードロット協会が20日に発表したフィードロット飼養頭数調査(MLA豪州食肉家畜生産者事業団との共同実施)によると、ことし4～6月期の飼養頭数は前期から9.3%増加して87.3万頭となった。干ばつの影響に伴う肥育素牛価格の下落が増加した要因とみられ、前年同期比では10.7%増となっている。

州別では、干ばつの影響が大きく及んでいるクイーンズランド州が前期から11.3%増えて52.3万頭(前年同期比20.4%増)となったほか、ビクトリア州、西オーストラリア州も前期から大幅に増加したほか、南オーストラリア州も8.0%増加となった。肥育素牛価格に加えて、南部の州では北部と比べて穀物価格も値下がりしていたのが増加した要因としている。前期からわずかな減少となったニューサウスウェールズ州では輸送コストの問題からクイーンズランド州や豪州中部から北部にかけてのノーザンテリトリーからの肥育素牛の値下がりの恩恵が得られなかったためとしている。

ここ5年間、飼養頭数は70万～80万頭の範囲内で増減を繰り返してきたが、87万頭台に

乗ったのは07年4～6月期以来、6年ぶりとなる。生体価格の下落で現地パッカーの収支も改善しつつあり、豪州ドルも軟化するなど日本のマーケットにとってはプラス材料と言いたいところだが、「今後、現地では夏のバーベキューシーズンに移ってゆくため国内需要が強まってくる。韓国や中国市場なども米国産で補えない分、豪州産への引合いが強まっており、かつてのように飼養頭数が増えたからといって、日本向けグレイフェッドの売り値はそう簡単に下がらないのでは(輸入筋)、「米国産の緩和で供給量が増えているうえに、国内牛肉マーケット自体がシュリンクしており、そんなに買い切れない(別の輸入筋)とみる向きが多く、今回の調査結果が日本にとってさほどプラスになるとはいえなさそうだ。

△全国フィードロット飼養頭数 (単位:頭)

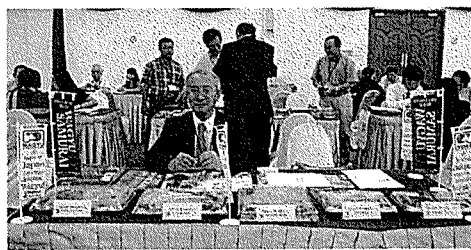
| | | | | 13年6月末 | 稼働率 | 前期比 | 前年同期比 |
|---|---|---|---|---------|-------|--------|--------|
| Q | L | D | 州 | 523,403 | 82.7% | 111.3% | 120.4% |
| N | S | W | 州 | 238,186 | 71.2% | 99.3% | 97.9% |
| V | I | C | 州 | 50,907 | 68.6% | 126.1% | 99.7% |
| S | A | | 州 | 24,140 | 76.6% | 108.0% | 98.6% |
| W | A | | 州 | 36,356 | 30.6% | 138.5% | 104.0% |
| 合 | 計 | | | 872,992 | 73.2% | 109.3% | 110.7% |

○ ジェトロがミャンマーで商談会、ミートコンパニオンが和牛を紹介

日本貿易振興機構(ジェトロ)は5～7日、ミャンマーでビジネスを検討している企業を対象にした「ミャンマービジネス開拓ミッション」を派遣した。日本からは36社・46人が参加。現地ヤンゴンではミャンマー企業との商談会が開かれ、畜産関係ではミートコンパニオン(東京・立川市)が和牛肉を出展し、現地バイヤーから多くの注目を集めていた。

ミャンマーはアジアのラスト・フロンティアとも言われ、民主化・経済開放の進展とともに、同国の潜在的な市場可能性に注目する海外企業が増加、日本の企業も進出先として高い関心を示している。

商談会はミャンマー連邦商工会議所で行われた。和牛の展示アイテムは、サーロインステーキ、すき焼き用、網焼き用、しゃぶしゃぶ用が並べられた=写真。ミートコンパニオンの植村光一郎常務取締役によると、日本からの和牛の展示は初めてで、現地バイヤーだけでなく同商工会議所のマウン・レイ副会長



も足を止めて、ミャンマーでも世界最高峰の和牛が早く食べられるようになった

てもらいたいと応援のメールを送っていたという。植村氏は、「安価な労働力、質の高い豊富な労働力と国を挙げての開発の勢いは目を見張るものがある。タイとの陸運が充実すれば爆発的な発展をするはずで、6,200万人の人口を持つミャンマーは、消費市場としての魅力を感じた」とし、「来場者の和牛の認知度は非常に高く、4件の具体的な打診がありその対応はタイ・バンコクの現地法人からの対応で考えてゆきたい」としている。

このほかミッションでは、現地企業工場やティワラSEZ工場団地建設予定地(260ha)の見学なども行われた。